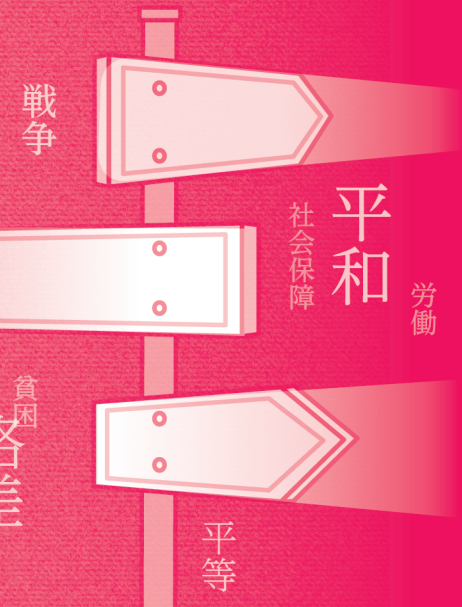


憲法を活かす 講演の集い

戦後70年

歴史の分岐点に 何をすべきか



戦後70年。日本では、労働法制の改悪、社会保障制度の後退、原発の再稼働、そして、平和国家から海外で戦争のできる国へと造り変える政治が、まさに推し進められようとしています。

国際社会では、米ソ冷戦とその終結、EU統合と動揺、ロシア・中国の台頭、9・11から始まった対テロ戦争とイスラム過激派の台

頭等、大きな変化が起きています。

経済に目を向ければ、「21世紀の資本論」(トマ・ピケティ著)の世界的流行が示すように、新自由主義により拡大した格差と貧困の克服は、世界的な課題となっています。そして、様々な識者から資本主義経済そのものの限界が指摘されています。

このような時代を私たちはどう捉え、何をなすべきか。「敗戦」の隠蔽から始まる日本の対米従属構造を論じた「永続敗戦論—戦後日本」の著者であり、原発問題、経済問題など様々な問題に対しても鋭く、かつ本質に迫る発言をされている白井聡氏に講演をお願いし、ともに考えたいと思います。

2015年

7月6日

先着 200名 | 参加無料
午後6時開場
午後6時30分開演

ハートピア京都 大ホール

京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
5番出口(地下鉄連絡通路にて連結)



講師 **白井 聡**

京都精華大学人文学部専任講師

1977年、東京都生まれ。政治学者。専攻は、社会思想・政治学。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得退学。博士(社会学)。著書『永続敗戦論—戦後日本の核心』(2013年)にて第35回石橋湛山賞、第12回角川財団学芸賞を受賞。その他著書に『未完のレーニン(力)の思想を読む』など。

